

「堂々川；活動テーマ「ホタルと花と砂留と」

2024(令和6)年5月27日 堂々川ホタル同好会情報紙 2024年度第1号(創刊229号)

1. 5月定例会は5月19日 18名が参加されました。
2. 2024年度最初の会報です。
3. 5月の堂々川ホタル同好会の主な出来事。

今回は福山市東ロータリークラブとの同時作業です。作業は6番砂留下流ホタル飛翔場所草刈り、堂々川河原・道路のゴミ拾い、6番砂留下流土手彼岸花植栽(ロータリーと合同作業)ホタルの幟旗取付、ロータリー植樹手伝い、6番砂留下流樹木伐採片付けでした。土肥顧問より5月27日20時頃1番と5番砂留河原にて約50匹のホタルが舞っていると報告があった。そして四番砂留の河原のなかに猪親子が進入の跡あり、鳶が迫の出口は水が多く滑りやすく危険です。

4. 目で見える事例



作業ミーティング



6番砂留下流ホタル飛翔場所草刈り



6番砂留下流ホタル飛翔場所草刈り



6番砂留下流土手彼岸花植栽



6番砂留下流樹木伐採片付け



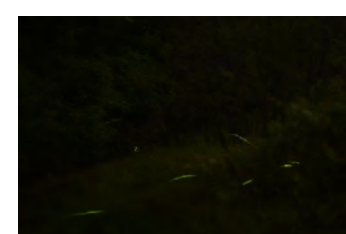
ゴミ拾い



ホタルの幟旗取付



作業後の合同ミーティング



5月27日 ホタルの飛翔

5. 次の定例会

6月9日(日) 1番砂留駐車場に集合

8:00~10:00

総会

10:00~

作業内容: 会長から別途指示、そして総会が開催されます。

6. 発行責任者 堂々川ホタル同好会 会長 中山晋一

7. 会の活動を行う為保険に入ります。参加される人は6月6日までに ライン調整さんへ

堂々川のホタル勉強会

堂々川の中流域で会員が最初にホタルを確認できたのは2004年5月、5番砂留の川原でした。広島県が5番砂留上流に橋や川を整備し川原を公園化する計画があったようです。石畳みを作っていた頃数匹の光を見たのが初めてのことでした。国分寺東の川からカワニナを発起人達が取って運んだ。そして2006年5番川原でホタルが乱舞した。一時服部のホタルをまねて養殖放流を検討したが会の目的が自然環境を守る事だから計画は2年で中止した。

日本のホタルは源氏・平家が水中生活を経て陸上で光る。他には山林の姫ホタルが有名です。世界では約2200種、日本では約50種です。源氏・平家ボタルは卵、さなぎ、幼虫。すべての過程で光ります。源氏の幼虫は水中生活の時1匹が約50匹程度をカワニナは食すと言います。雄は雌よりも体が小さく、孵化するのはメスより早く、空中で同期化発光し、飛翔します。地上で♀が光るのを見つけて急降下します。♀は♂を選んでから結婚します。雌が卵を産むのは、太陽光が直接当たらない橋の下や草の根株等、水辺の苔に産み付けます。堂々川では6月下旬に幼虫になり、水の中に落ちて成長します。そして翌年の4月ソメイヨシノ桜の満開あとすぐの雨の夜、光ながら上陸します。そして土に潜ります。光り初めは5月25日頃からです。



源氏ボタル成虫
赤の腹の部分に+が見える



平家ボタル成虫
赤の腹の部分にIが見える



6番砂留下のホタル



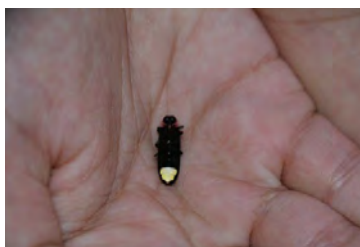
源氏ボタルの幼虫



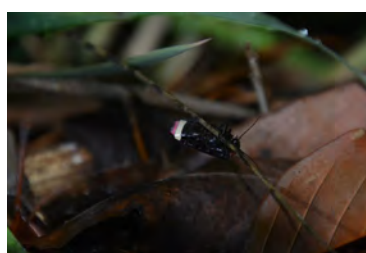
カワニナを食べている



4月雨の夜光りながら上陸



ホタルの♂ 2節黄色



ホタルの♀ 赤と黄色のお尻



平家ボタルの交尾メスの方が大きい

堂々川ホタル同好会のホームページアドレスは dodogawa.com です。